



蒸し暑さの厳しき折、時折現れる梅雨の匂いに田畑も心も潤います。
3号目となりましたわかなだよりです。年4回の定期発行にて皆様に情報発信をして参ります。



春から初夏へ

今年に残冬厳しく、桜の開花も若干遅めのようでした。わかなの御利用者様も毎年近場までお花見に出掛けます。

お花見



天竜公園、伊那公園、荒神山など、上伊那の各所を巡りました。バスの中からも見える美しい光景に、御利用者様からは感嘆の声が漏れていました。まだまだ肌寒い中でしたが、気温を忘れさせるほどの桜の美しさ。豪華な見た目の中には短命でどこか儂げな魅力も。毎



春の陽気に御利用者様の表情も自然と笑顔に。中には、あまりの美しさに感動して踊りだす方も。職員も御利用者様と一緒に満喫させて頂きました。皆様が楽しんで下さる事が一番の喜びです。

また、お昼を挟んだため厨房にてお弁当を作ってもらい、桜の木の下でいただきました。春にちなんだ献立でお腹も大満足のような感じでした。また、散った桜がお茶の中に入れてしまった場面もあり、まさしく「即席桜茶」



外でいただく御飯はまた格別!



4.5月生まれ御利用者様 お花見会食会 お誕生日会



四月二十四日、御家族様を招き、月例のお誕生日会と共に年一回の会食会が開かれました。午前は会食会・午後からはお誕生日会といった二部構成になっています。

会食会では、カツオ・山菜・タケノコ・フルーツなど、旬の食材をふんだんに盛り込んだ食事に舌鼓。

お誕生日会では、通常ボランティアの方にお願ひするアトラクションを新人職員が担当。毎年春の会食会では恒例となっておりまして、その切替は冬を是非見たいという



色とりどりの行事食



箕輪東小学校 学校公開へ参観

いつも交流等でお世話になっている箕輪東小学校の発表会へ参観させて頂きました。わかなの為に席を設けていただき、近くで観ることができました。各学級紹介と、歌の発表を鑑賞。元気な子供たちの姿はこちらまで楽しい気分になってくれる力強さがありました。中でも「せいぐらべ」の合唱が始まると、涙を流しながら想いを馳せられる御利用者様も。最後は「ふるさと」を児童と一緒に歌いました。



柱の傷はおとしの...



デイケア運動会



ウサギの耳で「はい、ポーズ」

デイケアでは夏のミニ運動会を開催。球入れから始まり、紐つなぎゲーム、ペーパー引きなど、どの競技も歓声を上げながら参加されました。

球入れのカゴは職員が背負い、平等に御利用者様を廻ります。惜しくも負けてしまったチームには、恐ろしい(?)罰ゲームが。内容は、ウサギの耳を付けて飛びつきりの笑顔でボーリング。女性はもちろん男性もキュートなポーズをして下さり、皆さんの貴重な一面を拝見させて



山椒香るく五平餅作り

さすが手馴れていらっしやいます



熱中症対策も万全

入所されている御利用者様が日々の生活の中で少しでもリフレッシュして頂く為、定期的にバスハイクなどの外出を行なっております。五月は小河内神社へ散策を兼ねた参拝へ。お願い事をする方、感謝の気持ちを述べられる方、様々でした。

また同月は伊那へ足を伸ばし、みはらしファームへ行って参りました。現地では馬のエサやり体験をして頂き、初めはおっかなびっくりだった御利用者様も、「かわいいね」「こっちにおいでよ」と笑顔で話しかけて下さり、花にも負けない美しさです



花にも負けない美しさです



車内では大合唱!

望台から音楽と共に出てくる可愛らしい鳩も見る事ができ、じっと見上げてその音色に聞こえていらっしやいました。平



レクリエーション

生活・心身を活性化



日々のレクリエーションの様子です。この日は玉入れゲームを行ないました。

意味合いの他、精神的・肉体的機能の維持・回復というリハビリ的観念も兼ね備えています。御利用者様にとって楽しめる内

焼きたてパンの販売

現在二社のパン屋さんが施設前玄関にて訪問販売を行なっております。ご自由にお買い物できますので、お時間が合いましたら立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

「トラットリア・フォルツァ」
～安曇野の大地から～
・毎週水曜
・12時半～

「こころ屋」
～県内産の小麦を使用～



編集後記

いよいよ本格的な夏の暑さとなって参りました。日中の暑さと夜の気温差で体調を崩される方が増えていきます。栄養・水分補給に気を付けて乗り切りましょう。感想も随時受け付けております。

介護老人保健施設わかな 広報委員会

「理念」

＝共に歩む＝
桃李(とうり)不言(ものかたらず)とも、
下(した)自(おのず)から成蹊(せいけい)

司馬遷の「史記」にある一文。
桃や李は何も言わないが、人は皆美しい花や甘い実を慕って集まってくる。そしてそこには自然に蹊(こみち)ができる。人も同じことで、思いやりのある人の周りには自然に人々が集まってくるもの。
共に働くもの皆の苦楽を共有し、徳を育み、社会がどの様に変化しようとも、地域や人々に慕われ、必要とされる法人と